

WebLog 操作ガイド

- IIS の (スタンダード) 形式版 *Ver 1.9.x*
- NCSA 形式版 *Ver 1.9.x*
- WebLog Convert *Ver 1.3.x*

目 次

はじめに	1
操作ガイド	
1 . Internet Information Service(Server)のログ設定	5
2 . WebLog の最初の起動	7
3 . WebLog のログ画面操作	10
4 . WebLog の集計画面操作	14
5 . WebLog の環境設定	17
6 . WebLog Convert	19
7 . 出力機能(CSV 形式)	24
8 . Ping、Tracert ユーティリティ	25
9 . ライセンス登録	26
付録	
サーバステータスコード解説	27

はじめに

【WebLog・WebLog Convert について】

WebLog は、WindowsNT4.0 Server に付属の Internet Information Server および Windows2000 Professional / Server 以降に付属の Internet Information Service <Windows2000 からはサービスとなりました> (以下 IIS) のアクセスログを解析するためのツールです。

IIS のバージョンは 2.0(WindowsNT) ~ 6.0(Windows Server2003) がありますが、Microsoft IIS ログ形式 (スタンダード型式) のログ解析には WebLog.exe を、NCSA 形式のログ解析には WebLog-N.exe をご利用下さい。

(IIS4.0 以降からの W3C 拡張形式のログには直接対応していませんので、ログのコンバートで NCSA 形式に変換後お使い下さい。)

WebLog Convert はログ形式のコンバートを行う IIS 付属のユーティリティである Convlog.exe を GUI で利用したり、自動変換を行うためのツールです。

WindowsNT4.0 Workstation に付属の Peer Web Services(以下 PWS)でも可。

Personal Web Server4.0 (9x, NT Workstation) では NCSA 形式でのみ利用可。

WindowsXP の HomeEdition には IIS 自体が付属していません。Professional 版をお使いください。

【WebLog の使い道】

- ・訪問者がホームページ内をどう渡り歩いたかを知る。
- ・ホームページのどのコンテンツが人気があるか(何が人気が無いか)を知る。
- ・一日の内で、どの時間帯にアクセスが集中するかを知る。
- ・一週間の内で、何曜日にアクセスが集中するかを知る。
- ・月毎のアクセス件数の変遷。
- ・アクセスの多い訪問者の IP アドレスを知る。
- ・アクセスエラー(リンクエラーや不正アクセス)を知る。
- ・LAN 内(プライベートアドレス)のアクセスと外部のアクセスを分けて集計する。
- ・集計対象の IP アドレスや URL の指定にワイルドカード(*,?)や否定(Not)が使用できるので特定範囲のアドレスや URL を抽出して集計をとることが可能。
- ・Ver1.6 より集計結果を CSV(テキスト)形式で出力でき、Excel 等の表計算ソフトで利用可能になりました。
- ・WebLog Convert を使うとクライアント IP アドレスをドメイン名に変換することができます。

【このソフトの対象ユーザ】

特に規定があるわけではありませんが、1日に何万件とアクセスがあるようなビッシクな Web サーバーのログ解析には不向きかもしれません。中小企業の Web 管理者や SOHO で個人の Web サーバーを構築している方などを想定しています。

アクセス件数に比例してログのサイズも増加します。ログ解析の時間もそれなりに掛かりますのでご了承ください。

【インストールに必要な環境】

• WebLog

Windows9x、WindowsMe、WindowsNT4.0(SP3以降/SP5推奨)、Windows2000(Professional/Server)、WindowsXP(Home/Professional) Windows Server 2003が動作する環境。
20MB以上のハードディスクの空き容量。

デスクトップ領域 800×600以上、16ビットカラー以上を推奨(256色可)。

• WebLog Convert

WindowsNT4.0(SP3以降/SP5推奨)、Windows2000(Professional/Server)、WindowsXP(Professional)、Windows Server 2003でIIS(PWS)が動作する環境。
5MB以上のハードディスクの空き容量。

デスクトップ領域 640×480以上、256色以上。

【動作確認環境】

Web サーバマシン (WebLog Convert 動作マシン)

NEC PC-9821Rs 26 (Pentium 266MHz : メモリ 192MB)

- WindowsNT4.0 Server(SP5) + IIS 3.0 + Internet Explorer 5.0

SOTEC MicroPC Station 333(Celeron333MHz : メモリ 96MB)

- WindowsNT4.0 Workstation(SP5) + PWS 3.0 + Internet Explorer 5.0
- Windows2000 Professional + IIS 5.0 + Internet Explorer 5.0
- Windows2000 Server + IIS 5.0 + Internet Explorer 5.0
- Windows Server 2003 + IIS 6.0 + Internet Explorer 6.0

WebLog 動作マシン

NEC PC-9821V20(Pentium200MHz : メモリ 40MB)

- Windows95(SP1) + Internet Explorer 5.0
- WindowsNT4.0 Workstation(SP5) + Internet Explorer 5.0

SOTEC MicroPC Station 333(Celeron333MHz : メモリ 96MB)

- Windows98(SP1)
- WindowsNT4.0 Workstation(SP5) + Internet Explorer 5.0
- Windows2000 Professional + Internet Explorer 5.0
- Windows2000 Server + Internet Explorer 5.0
- Windows Server 2003 + Internet Explorer 6.0

【開発環境】

Microsoft Visual Basic 6.0 (Enterprise 版 : SP3)

【インストール方法】

ダウンロードしたファイルを同一フォルダ内に解凍し、Setup.exe を実行すると自動的にインストーラが起動します。

下の【使用上の注意】をお読み下さい。

【アップデート方法】

既に通常のインストールを済ませてあれば、最新のプログラムを上書きコピーするだけです。VB ランタイム無しのサブセット版をダウンロードしてください。

(注)アンインストールをせず、通常のインストールすると2重に登録されます

【アンインストール方法】

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」から WebLog を選択し、「追加と削除」ボタンをクリックしてください。

なお、レジストリに、関連情報が残りますので、気になる方は regedit.exe など「HKEY_USERS¥...¥SoftWare¥VB and VBA Program Settings¥WebLog」を削除してください。(注：誤って他を削除しても責任は取れませんのでご注意ください。)

【使用上の注意】

• WebLog

本アプリケーションは趣味で作ったものです。Web サーバーはハングアップなどが許されない使命？があります。従いまして、大事なサーバーをダウンさせないためにも、サーバー機以外のマシンにインストールし、サーバーのログを共有できるようにしてから参照してください。WebLog はログファイルに一切書き込みはしません。読取専用 (Read Only) で読み込んだログファイルは Microsoft Access97 型式のファイルにしてから集計処理などを行っています。

• WebLog Convert

WebLog Convert はその性格上 Web サーバーへインストールする必要があります。IP アドレスをドメイン名に変換するには、インターネットに接続している必要があるからです。イントラネット内で使用した場合、コンピュータ名に変換されます。実際のコンバートは convlog.exe が行っていますので、convlog.exe の機能以上のことは出来ません。(詳細は本文)

【著作権・使用・配布条件】

WebLog・WebLog Convert (以下、本ソフトウェア) の著作権はなっちゃんにあります。WebLog Convert はフリーソフトウェアとして提供しますので、無償で自由に使用できます。WebLog シェアウェアとして提供しますので、別紙「WebLog 使用許諾契約書」(license.txt) に同意する場合に限り使用することができます。

転載、再配布はオリジナルのままで行ってください。

転載、雑誌掲載などは予め連絡をしてください。

【無保証・免責】

本ソフトウェアは、無保証です。

本ソフトウェアを用いた結果による損害、免失利益などについては著作者に責任はないものとします。使用者自身の責任でお使い下さい。

著作者は、誤動作が起きないように注意して本ソフトウェアのメンテナンスを行っていますが、予期しない問題が起きる可能性は常にあります。

【サポート】

本ソフトウェアのサポート方法は、現在は次のようになっています。

- ・感想やバグ報告などは、Web ページに設置したサポート用ゲストブック、またはメールで受け付けています。
- ・ホームページ : <http://iis-weblog.hp.infoseek.co.jp/>
- ・メールアドレス: k_natchan@yahoo.co.jp

【謝辞】

本操作ガイドの付録として「サーバーステータスの解説」を ToRA. 氏の好意により収録することが出来ました。ここに謹んで御礼申し上げます。

ToRA. 氏 URL : <http://www.mars.dti.ne.jp/~torao/program/index.html>

【改定履歴】

- ・ WebLog readme.txt を参照
- ・ WebLog(NCSA) readme-n.txt を参照
- ・ WebLog Convert readme-c.txt を参照

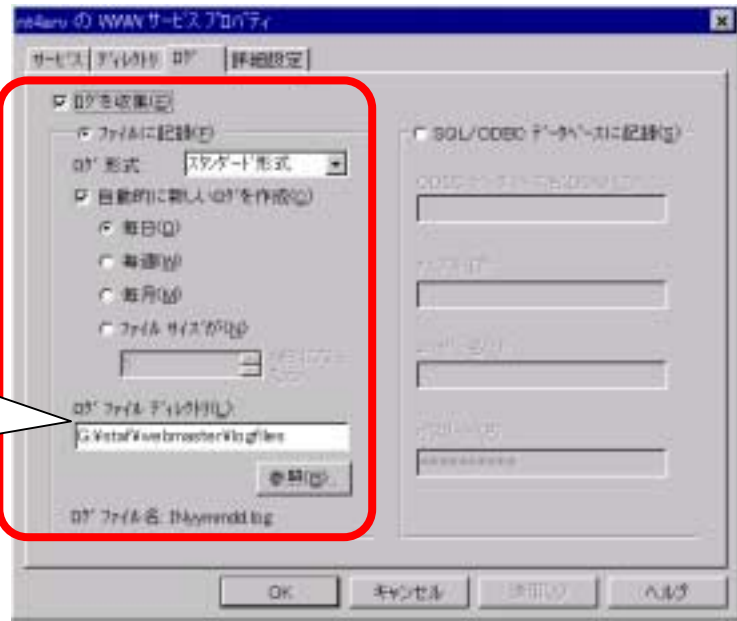
Microsoft および Windows、WindowsNT、WindowsXP、Visual Basic、Internet Information Server、Internet Information Service、Peer Web Services、Personal Web Server は Microsoft Corporation の米国および各国における登録商標および商標です。Adobe、Acrobat はアドビシステムズ社の商標です。

1 .Internet Information Service(Server)のログ設定 (注1)(注2)

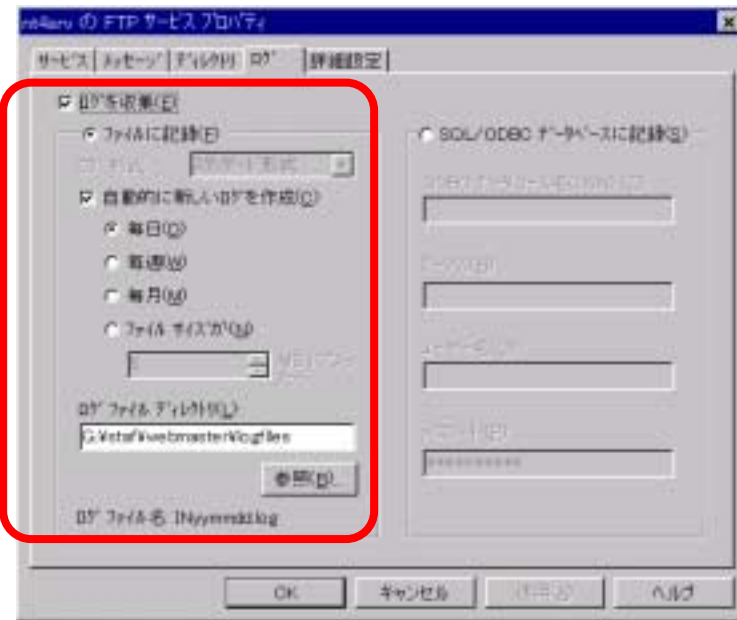
WebLog は下図のようにログ型式を「スタンダード型式」にして出力されるテキストファイルを解析します。ログの作成頻度は「毎日」が便利です。WebLog はログ解析時に読み込むファイルを複数指定できます。1 日分でも 1 ヶ月分でも可能です。1 日単位に出力すれば、そのファイルサイズを確認するだけでもアクセス件数の変遷がわかります。

WWW 用ログ
設定例

ログ保存ディレクトリの初期値はシステムディレクトリの Logfiles フォルダになっていますが変更可能です。

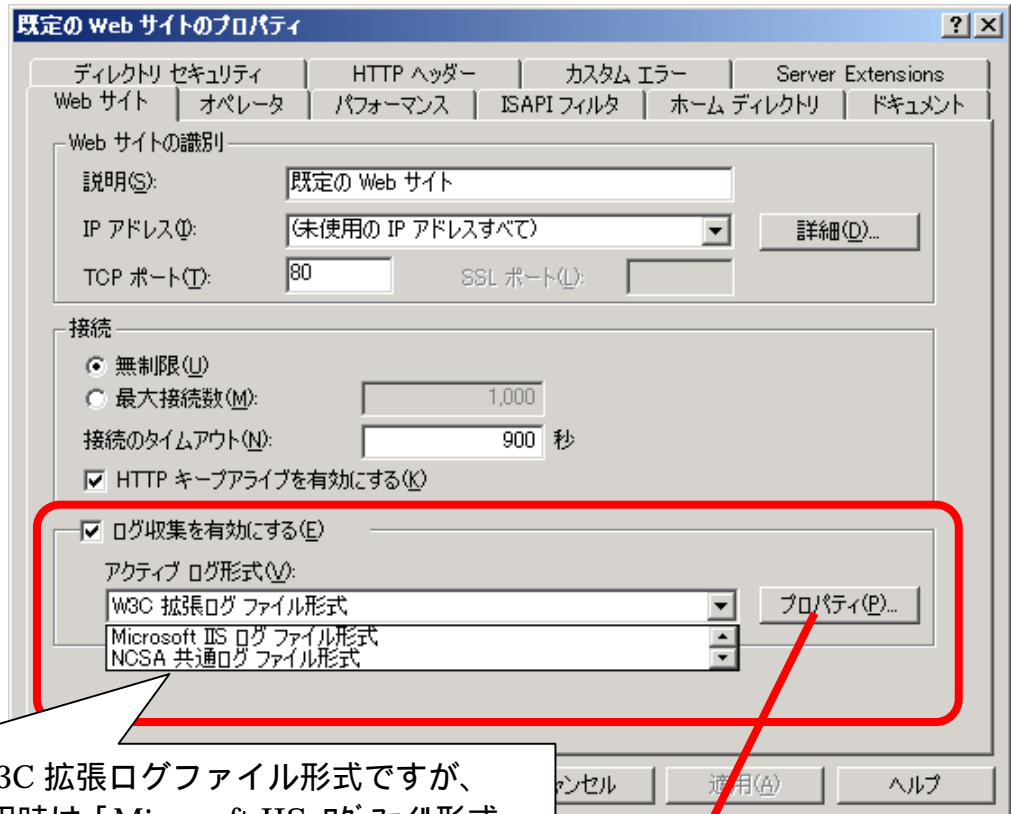


FTP 用ログ
設定例

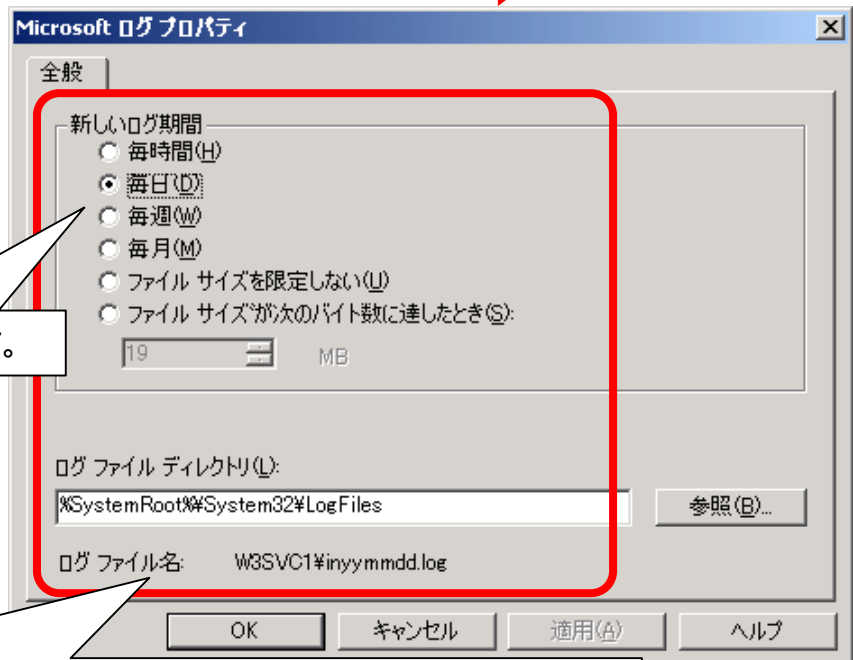


- (注1) IIS のバージョンは 2.0 ~ 6.0 に対応。NCSA 形式は WebLog-N.exe を使用。スタンダード形式は IIS3 までの呼び名で IIS4 以降は IIS ログ形式と呼ばれます。
- (注2) NT workstation の Web サービスである Peer Web Services (PWS)でも利用可。Windows98 や WindowsNT Option Pack を導入すると Personal Web Server が利用できますが、NCSA 形式固定です。

Windows2000 Server : Internet Information Service マネージャーの画面



初期値は W3C 拡張ログファイル形式ですが、**WebLog** 使用時は「Microsoft IIS ログファイル形式」、**WebLog-N** 使用時は「NCSA 共通ログファイル形式」を選択してください。



「毎日」を選択します。

IIS 4 から、Web サイトが「既定」と「管理者」の 2 つに分かれます。インターネット公開用は「既定」の方を使います。よって、ログファイルディレクトリも `**%System32%LogFiles%W3SVC1%` 内に出力されます。

2 . WebLog の最初の起動

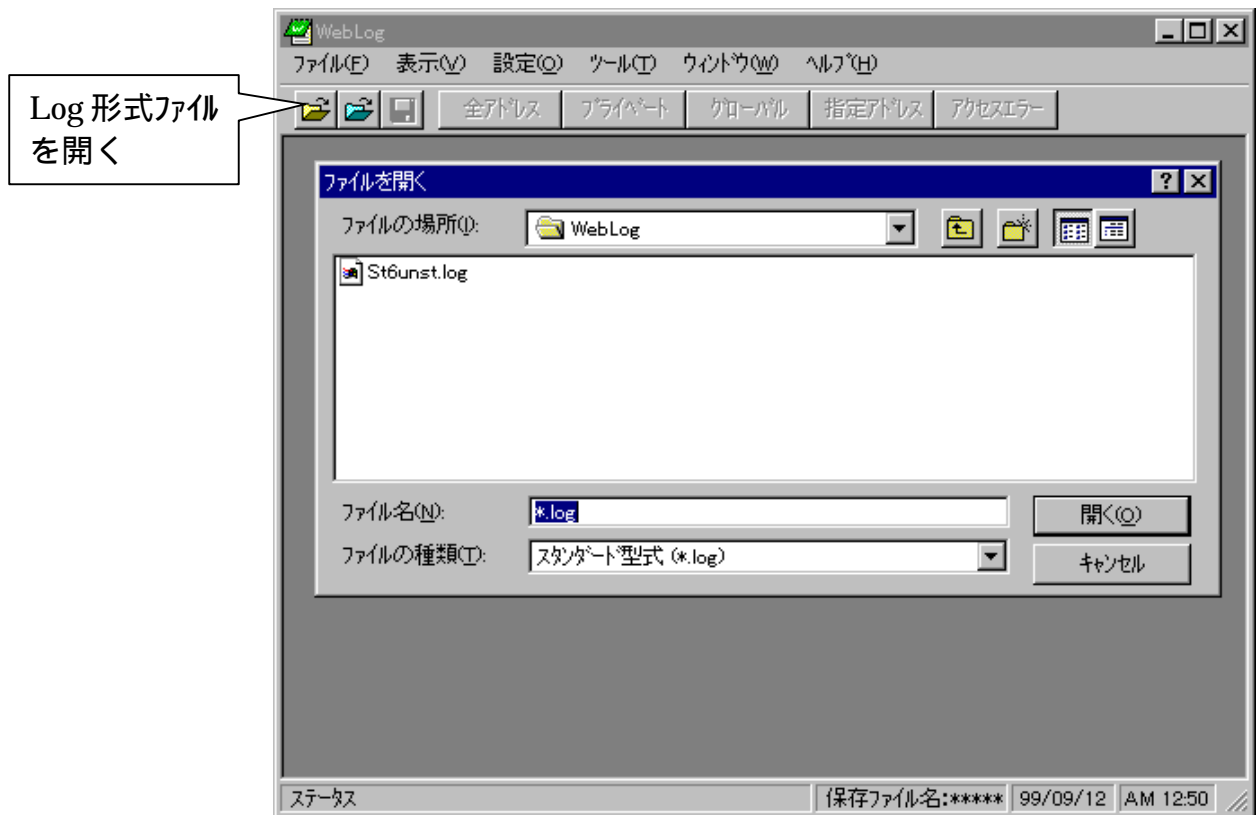
説明は IIS ログ(スタンダード)形式版で行いますが、NCSA 形式版も同様です
一部現バージョンと異なる箇所もあります

下の図 1 がインストール後、最初の起動時の画面です。

Log ファイルを選択するようになっていました。初期値は WebLog のインストールされたフォルダ内を見ているので、「1 . Internet Information Service の設定」で指定した log ファイルの出力フォルダを参照します。(注 1)

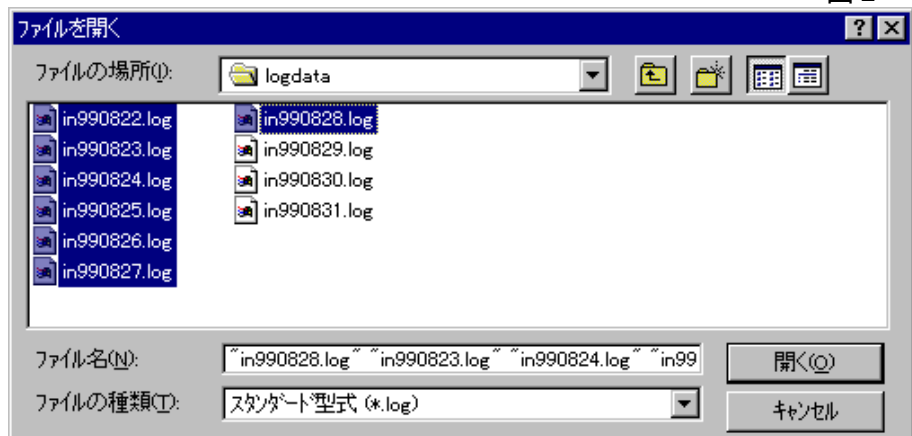
キャンセルした場合や、別のログファイルを選ぶ時にはツールボタン「log 形式ファイルを開く」をクリックします。

図 1



Log ファイルは複数選択が可能です(図 2)。1 週間・1 ヶ月分を集計することができます。

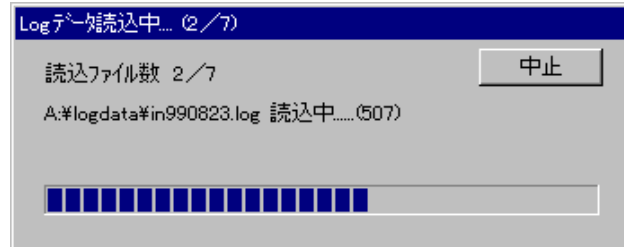
図 2



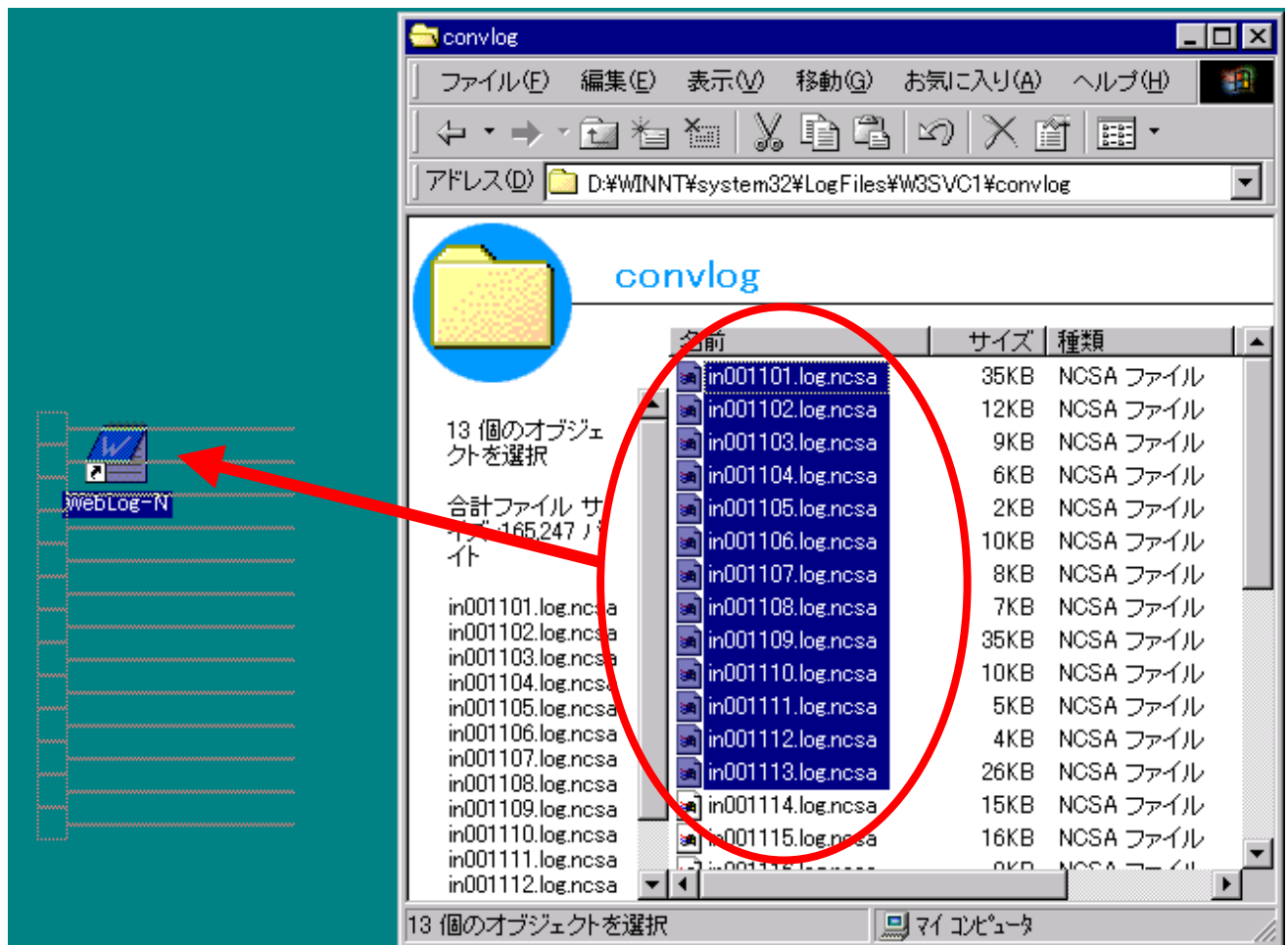
(注1) 一度参照されたフォルダは記憶されます。

選択されたファイルを読み込んでいる状態が図3です。「中止」ボタンをクリックすると読み込みを途中キャンセルします。

図3

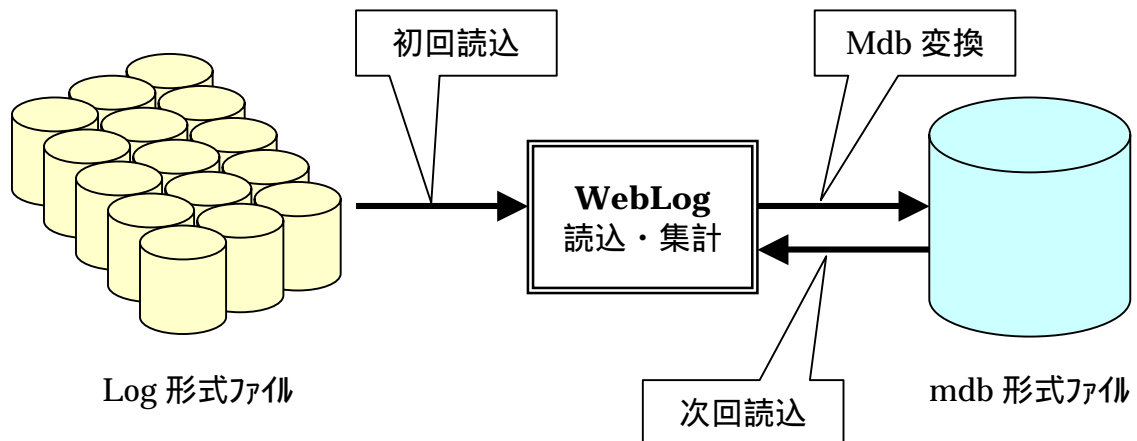


ドラッグ & ドロップでも読み取りできます！



WebLog のファイル管理

WebLog が扱うファイルは Web サーバーが出力したログファイルですが、集計などの解析処理には Microsoft Access97 形式の mdb ファイルに変換したのを使います。従ってログファイルには一切書き込みは行いません。そこで一度解析したログは mdb 形式で保存することが出来ます。以後、同じログを解析する場合 mdb 形式を読み込んだ方が楽です。



- mdb 形式での保存
「ファイルメニュー」から「名前を付けて保存」を選択し、mdb ファイルの保存先とファイル名を指定します。
 - mdb 形式の読込
ツールボタンの「mdb 形式ファイルを開く」(水色のフォルダアイコン)をクリック。
複数選択が可能で、1ヶ月分の mdb ファイルを1年分(12個の mdb ファイル)結合し読み込むことが出来ます。(結合した mdb ファイルも名前を付けて保存可)
- 注意) IIS ログ形式版と NCSA 形式版の mdb は内部構造が異なります

3 . WebLog のログ画面操作

下の図 4 が読み込んだログ内容を表示したものです。(ログの内容は表 1 ・表 2)

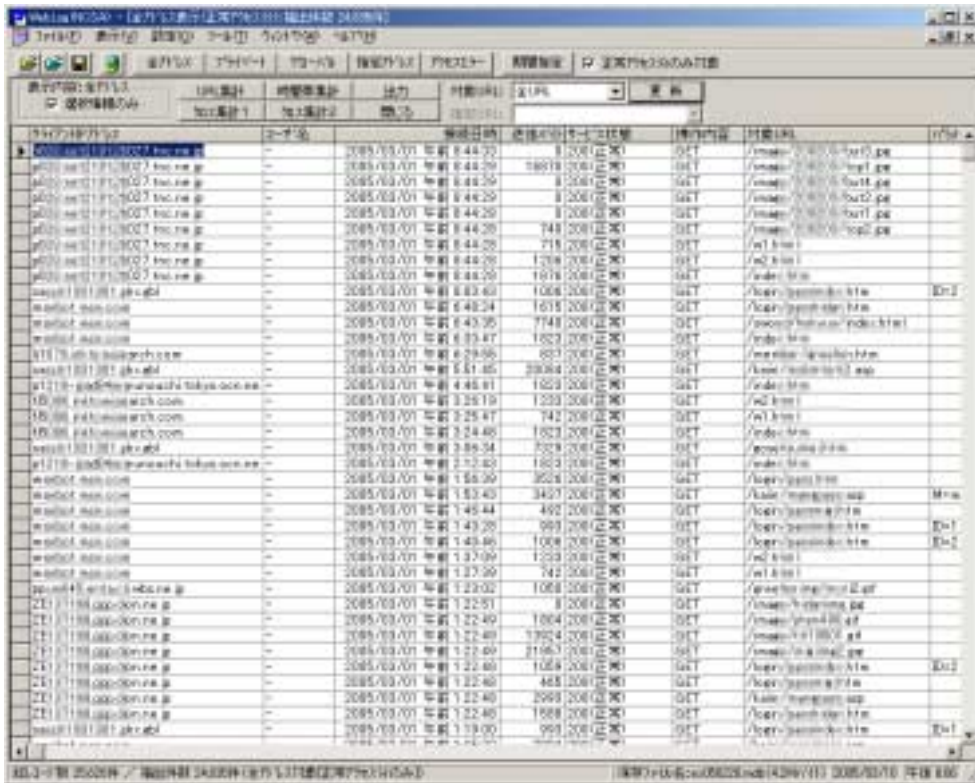


表 1 : ログファイルの出力内容 (IIS の(スタンダード)形式版 : 選択表示項目は環境設定で変更可)

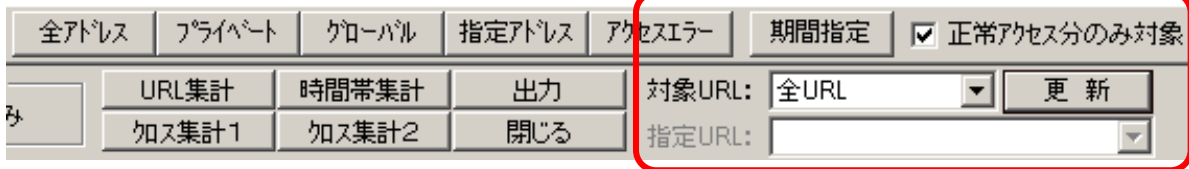
項目名	内 容	初期 選択	
1	クライアント IP アドレス	サーバにアクセスしたクライアントの IP アドレス	
2	ユーザ名	サーバにアクセスした場合のクライアントユーザ名 (通常は匿名なので空白)	×
3	接続日時	アクセスのあった日付と時刻	
4	サービスタイプ	要求を受けたサービスが WWW か FTP かを示す	×
5	サーバコンピュータ名	Web サービスを実行しているコンピュータ名	×
6	サーバ IP アドレス	上記コンピュータの IP アドレス	×
7	作業時間(ミリ秒)	処理に掛かった時間をミリ秒で表示	×
8	受信バイト	サーバがクライアントから受信したデータ量	×
9	送信バイト	サーバがクライアントへ送信したデータ量	×
10	サービス状態	サーバがクライアントからの要求にどう応えたかを 3 桁のコードで表示。(詳細は付録を参照)	
11	システム状態	OS の応答。(0 が正常、それ以外が何らかの異常。「アクセスエラー」のログは、この値が 0 以外を抽出)	×
12	操作内容	クライアントが行った操作。GET=取得,HEAD=取得(確認のみ),POST=投稿,PUT=作成,DELETE=削除	×
13	対象 URL	クライアントが要求した URL	
14	パラメータ	クライアントが要求した URL 以外の内容(引数)	×

表 2 : ログファイルの出力内容 (NCSA 形式版 : 選択表示項目は環境設定で変更可)

項目名	内 容	初期 選択
1 クライアント IP アドレス	サーバにアクセスしたクライアントの IP アドレス	
2 ユーザ名	サーバにアクセスした場合のクライアントユーザ名 (通常は匿名なので空白)	×
3 接続日時	アクセスのあった日付と時刻	
4 送信バイト	サーバがクライアントへ送信したデータ量	×
5 サービス状態	サーバがクライアントからの要求にどう応えたかを 3 桁のコードで表示。(詳細は付録を参照)	
6 操作内容	クライアントが行った操作。GET=取得,HEAD=取得(確認のみ),POST=投稿,PUT=作成,DELETE=削除	×
7 対象 URL	クライアントが要求した URL	
8 パラメータ	クライアントが要求した URL 以外の内容(引数)	×

は NCSA 形式では「要求」という一つのデータですが、検索・集計の便を考え、IIS ログ形式と同様な項目に分けました。

また の送信バイトは IIS のオンラインマニュアルには受信バイトとありますがスタンダード型式と比較して内容的には送信バイトに相当するので、本ソフトではあえてこう表示します。



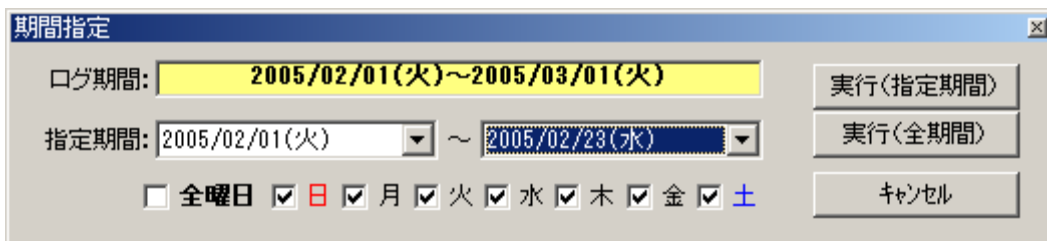
Ver. 1.7.3 より正常アクセス分のみ表示機能を追加しました。

「正常アクセス分」とは、

- ・ I I S ログ形式 システム状態が 0 以外のもの
- ・ N C S A 形式 サービス状態が 4** , 5** のもの

Ver. 1.8.0 よりログ表示画面でも「対象 URL」の選択が可能になりました。

Ver. 1.9.5 より参照したい期間のみを表示・集計対象にすることが可能になりました。



下の図5は、列幅を見やすいように調整したものです。このように調整した列幅は記憶されますので、次回呼び出し時に再調整する必要がありません。
 更に図6は、全てのログ情報を表示したものです。「選択情報のみ」のチェックボタンを On、Off することでいつでも切り替えできます。

図5

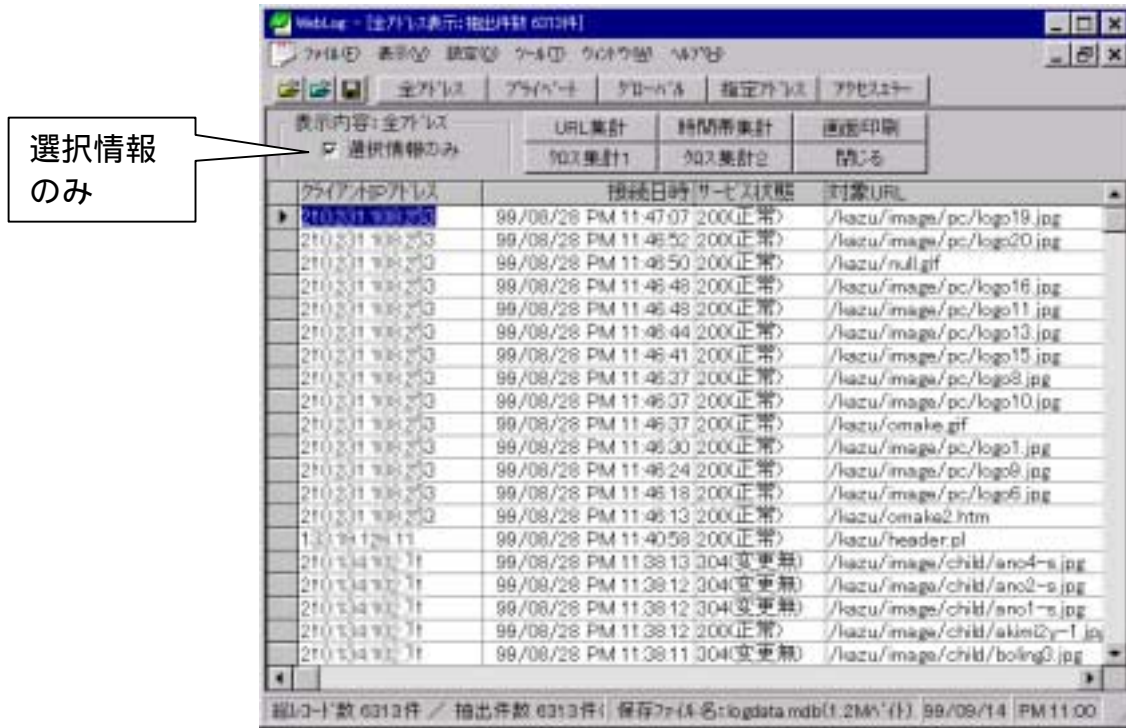
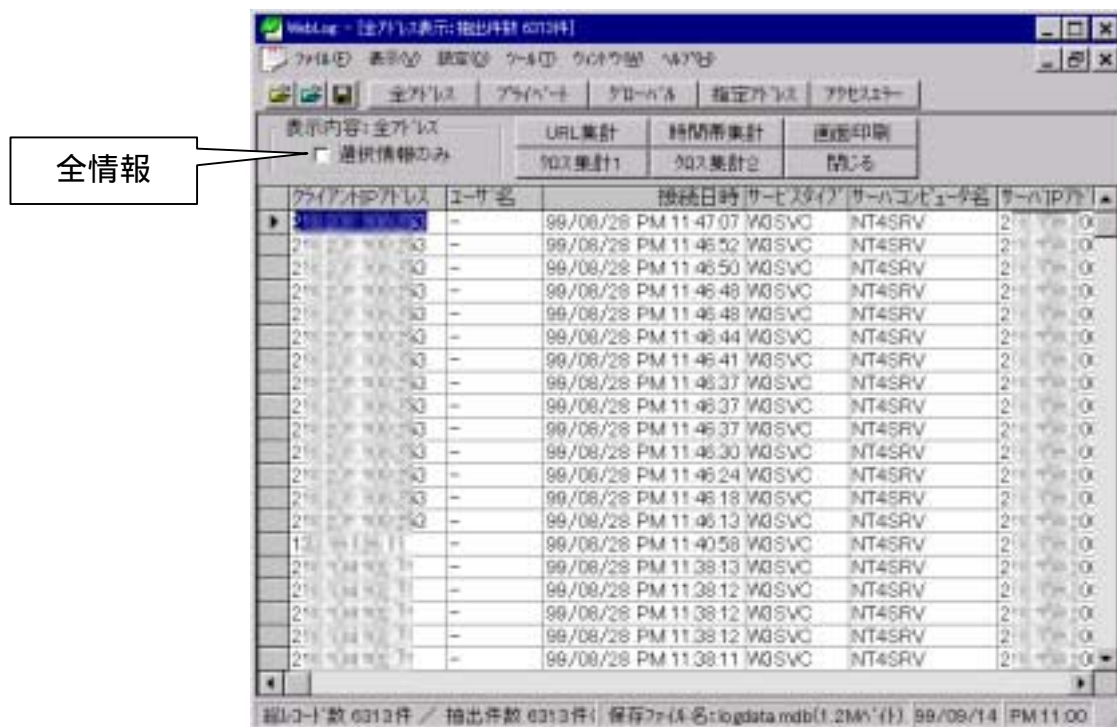


図6



ログ情報はクライアントIPアドレスのタイプ別に抽出することができます。(表3・図7)
 ツールボタンにある各タイプをクリックします。

表3

	アドレスタイプ	内容
1	全アドレス	全てのクライアントのログを表示(全件)
2	プライベートアドレス	環境設定で指定したプライベートIPアドレスを持つログ情報だけを表示
3	グローバルアドレス	上記2を除いた全てのログを表示
4	指定アドレス	特定範囲のIPアドレスを指定し、そのログを表示
5	アクセスエラー	全アドレスからアクセス異常のあるログだけを表示

各ボタンをクリックすると該当のログが表示されます

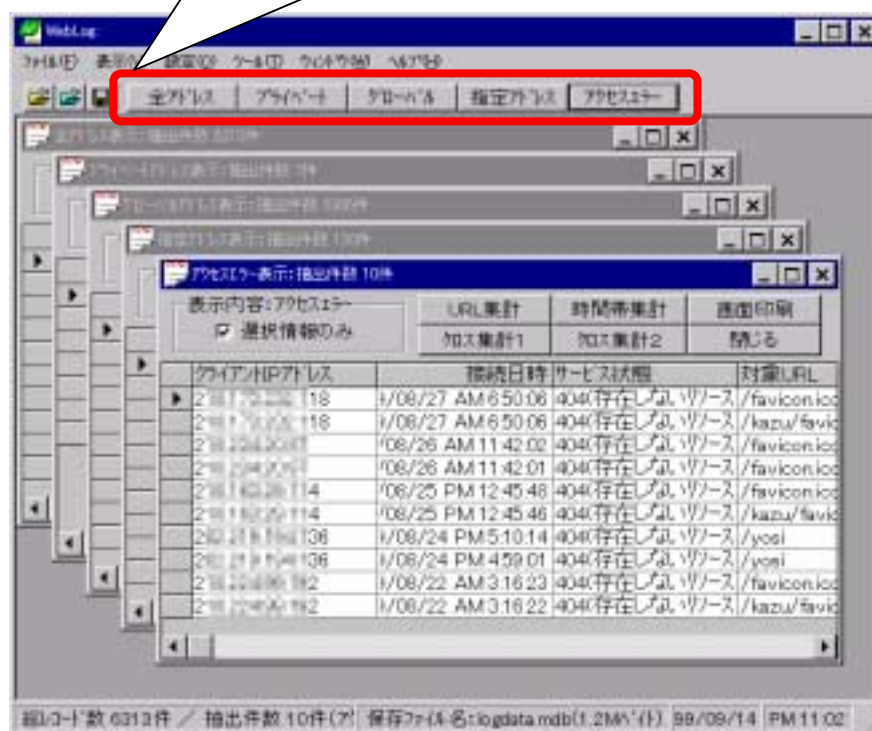


図7: MDI (マルチドキュメントインターフェイス) で表示されるログ情報

ログ内容によるソート

ログ情報は起動時、接続日時の降順(新しい日時順)によってソートが行われています。更に、ログ情報画面の各項目名をクリックするとその列の値によるソートが行われます。クリックする度に、昇順・降順が切り替わります。

4 . WebLog の集計画面操作

ログ情報画面には4つの集計コマンドがあります。(下図)

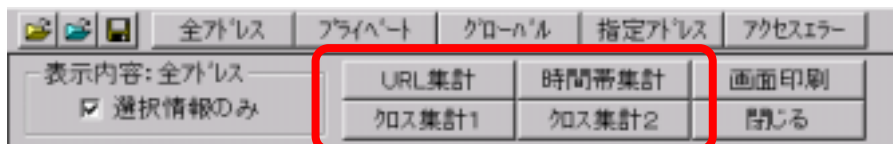


図 8

URL 集計

ログ情報のなかでも最も気になるのがホームページのアクセス件数です。この URL 集計は現在表示中のログ情報から「対象 URL」のアクセス数を集計するものです。

対象 URL は html コメントから gif や jpeg などの画像データなど様々なファイルがあります。そのため対象 URL を5段階に絞って集計できるようになっています。

- ・デフォルトコメント (図 9)
- ・ホームページ (図 8)
- ・データ
- ・全 URL
- ・指定 URL (図 10)

対象URL	アクセス数
/kazu/header.pl	185
/kazu/default.htm	174
/kazu/welcome.htm	173
/kazu/index.htm	164
/kazu/ryoko.htm	65
/Default.htm	59
/kazu/syumi.htm	54
/kazu/ryoko2.htm	54
/index.htm	35
/kazu/child.htm	31
/welcome.htm	31
/kazu/mosha4.htm	29
/kazu/goldfish.htm	27
/chohyo.htm	25
/product.htm	21
/kazu/mosha5.htm	19
/kazu/jisaw/jie-kingyo.htm	19
/kazu/mosha1.htm	19
/kazu/onebbs.pl	17
/kazu/wintool.htm	14

図 10

図 9

対象URL	アクセス数
/Default.htm	80
/demo/default.htm	11
/kazu/default.htm	248

対象URL	アクセス数
/kazu/welcome.htm	253
/kazu/default.htm	248
/kazu/index.htm	240
/kazu/ryoko.htm	95
/kazu/syumi.htm	81
/kazu/ryoko2.htm	70
/kazu/child.htm	47
/kazu/mosha4.htm	44
/kazu/goldfish.htm	39
/kazu/mosha5.htm	28
/kazu/jisaw/jie-kingyo.htm	22
/kazu/mosha1.htm	21
/kazu/link.htm	20
/kazu/wintool.htm	20
/kazu/mosha2.htm	18
/kazu/omake2.htm	17
/kazu/html.htm	17
/kazu/search.htm	12
/kazu/mosha3.htm	9
/kazu/mobil.htm	9

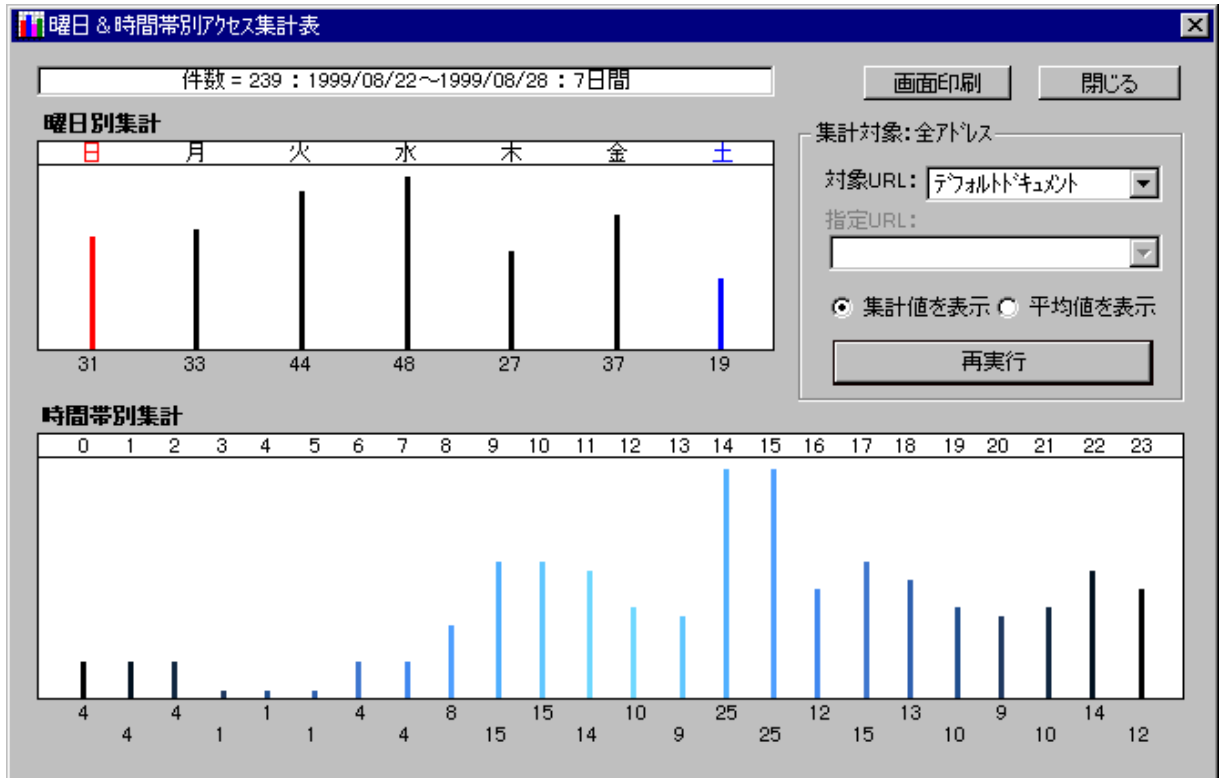
時間帯集計

アクセスがどの時間帯に集中するかをグラフで一目瞭然にします。(図 11)

ログ情報の対象期間内の曜日別・時間帯別に集計します。曜日別の場合、一週間単位のデータであれば問題ありませんが、同一曜日の数が異なれば集計値そのものには上下関係はつけられません。そのような場合に便利のように平均値を表示できるようにもなっています。

Ver.1.9.5 より平均値の求め方を実データの日数による方式に改めました。

図 11



指定 URL の記述

集計対象とする URL を指定することができます。「/Default.htm」等のように特定の URL を指定することはもちろん、*や?等のワイルドカードや NOT (否定) を使用できます。

(例)

/kazu/*.htm	/kazu ディレクトリ内の全ての htm ドキュメント
Not /kazu/*	/kazu ディレクトリを除く全てのファイル
/image/abc???.jpg	/image ディレクトリ内の abc を先頭に持つ 6 文字内の jpeg ファイル

クロス集計 1 (対象 URL × 接続日時)

対象 URL のアクセス状況を接続日時の集計単位別に表にしたものです。(図 12)
 接続日時を時間別・日(年月日)別・月別・四半期別・年別・同一日別の 6 段階で
 集計できます。

図 12

対象URL	アクセス集計	1999/10
/kazu/header.pl	32	
/kazu/welcome.h	27	
/kazu/Default.htr	26	
/kazu/index.htm	24	24
/kazu/ryoko.htm	13	13
/kazu/syum.htm	12	12
/kazu/onegbbs.pl	11	11
/kazu/link.htm	10	10
/kazu/mosha5.ht	9	9
/welcome.htm	8	8
/demoinfo.htm	7	7
/kazu/child.htm	7	7
/kazu/goldfish.ht	6	6
/kazu/mosha2.ht	6	6
/kazu/mosha4.ht	6	6
/kazu/html.htm	5	5
/new.htm	5	5
/index.htm	5	5
/Default.htm	5	5

クロス集計 2 (クライアント IP アドレス × 対象 URL)

クライアント IP アドレス別の対象 URL のアクセス状況を表にしたものです。(図 13)
 訪問者が何に興味を示したかがわかります。

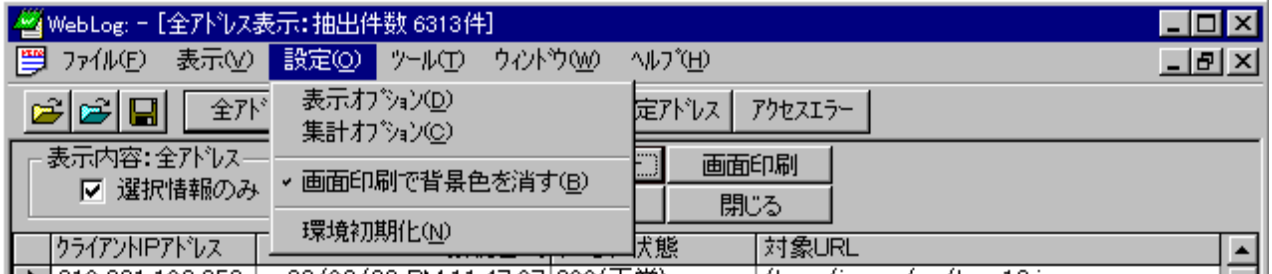
図 13

クライアントIPアドレス	アクセス集計	/Default_htm	/demo/default_htm	/kazu/Default_htm
210.147.125.173	8	7		1
201.122.19.100	7	7		
133.206.117.229	4	4		
210.147.125.187	3	3		
203.181.70.208	3	2		1
210.147.125.2	2	1		1
152.182.180.98	2			2
201.122.19.87	2	1		1
210.147.125.98	2	1		1
210.201.137.103	2	1	1	
210.147.125.100	2			2
192.180.21.88	2			2
210.204.28.60	2	1	1	
210.147.125.100	2			2
210.201.137.7	2	2		
210.204.28.211	2			2
210.147.125.81	2			2

注意) このクロス集計 2 では対象 URL の数(列数)が 250 程度までの制限があります。

5. WebLog の環境設定

WebLog の「設定」メニューから「表示オプション」「集計オプション」を設定できます。(下図)



表示オプション (図 15)

起動時、Log ファイル選択画面を表示する。
初期値は必ず起動時に表示。

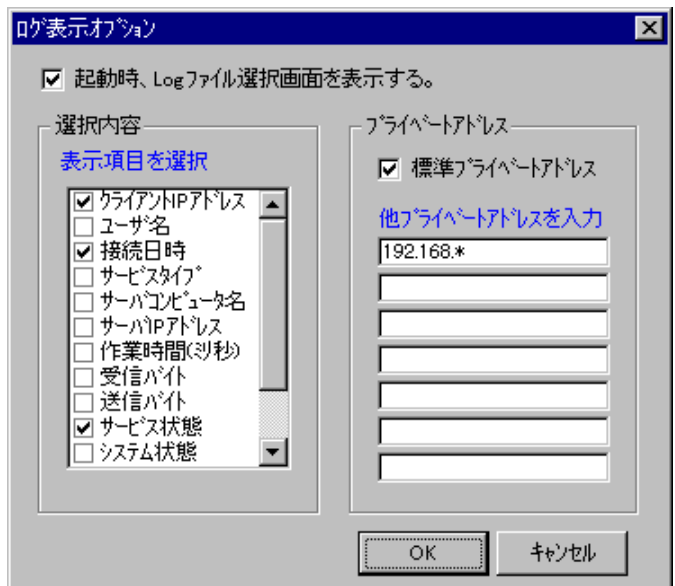
表示オプションの選択表示項目の指定
自分の好みで取捨選択します。

プライベートアドレスの指定
標準プライベートアドレスをチェックすると 192.168.* が自動で入ります。
その他必要に応じて追加してください。例えばプロキシ経由の社内アクセスを除く場合はプロキシ経由のアドレスを入力します。

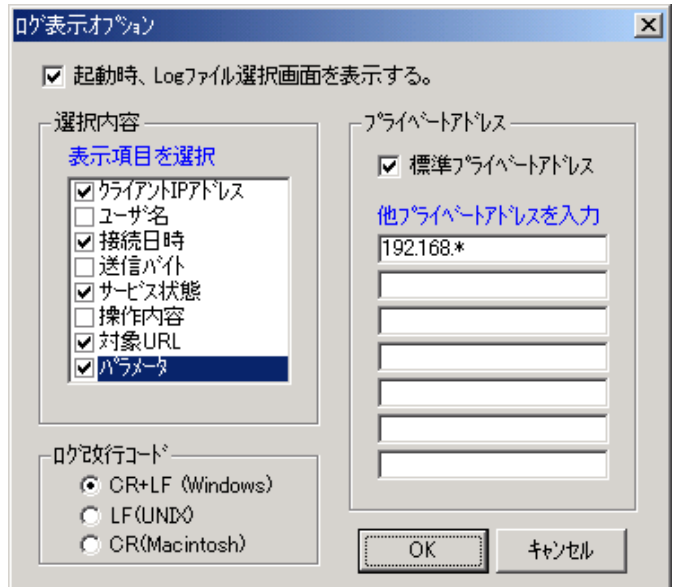
改行コードタイプの指定(NCSA 形式のみ)
ログファイルの改行コードを選択できます。

IIS ログ(スタンダード)形式版

図 15



NCSA 形式版



ログ集計オプション (図 16)

メインホームページ

デフォルトコメントを指定。

ホームページ集計対象の指定

必要に応じて追加して下さい。

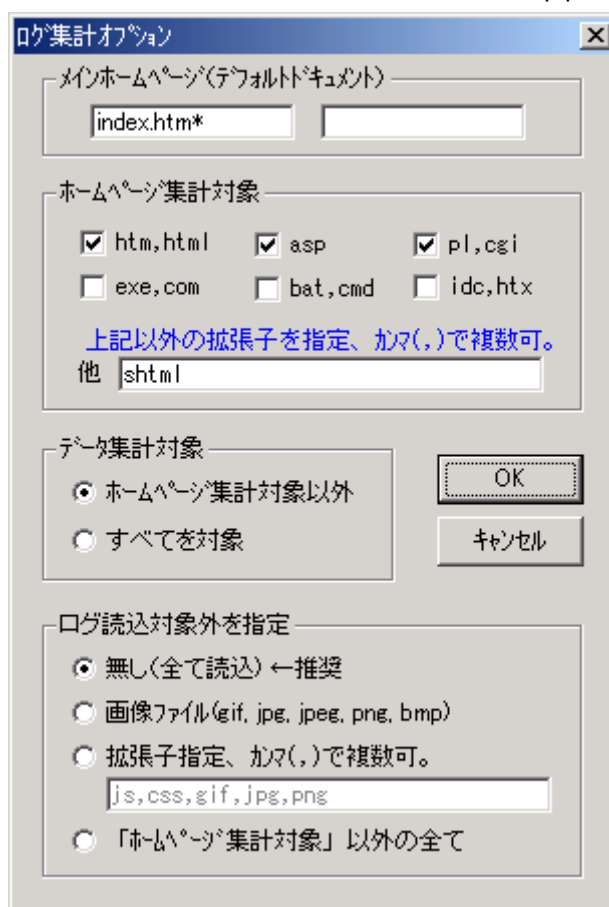
データ集計対象の指定

通常は、ホームページ集計対象以外
でいいはずです。

ログ読込対象外を指定

アクセスログにはhtmlファイルを構成
する沢山の画像ファイル等が同時に
書き込まれます。これらを除く
ことでログサイズを小さくする
ことができます。

Ver.1.8.0より



6 . WebLog Convert (ログ変換ユーティリティ)

IIS(PWS)が出力するログ情報のクライアント IP アドレスは単に数値の羅列で一体どこの誰なのか分かりません。そのため旧バージョンの WebLog では Ping や Tracert を使ってドメイン名を調べることをしていました。(7. Ping, Tracert ユーティリティで解説) 今回のバージョンでは、IIS(PWS)に付属するユーティリティ「convlog.exe」を利用して、自動で IP アドレスのドメイン名変換を行うツールを用意しました。

注意) readme-c.txt や操作ガイドの「はじめに - 使用上の注意」にも記載した通り WebLog Convert はインターネットに接続されている Web サーバーにインストールする必要があります。必要な環境にインストールされていない場合、起動時に警告メッセージを表示します。

WebLog Convert 初回起動直後の画面 - IIS4 の時(図 17)



図 17

1 . コンバート内容

コンバート方式を選択します。Internet Information Server3(IIS3)と Internet Information Server4(IIS4)では Convlog.exe の仕様が異なります。convlog.exe のバージョンが、4.00.xxx までを IIS3 タイプ、4.02.xxx 以降を IIS4 タイプと見なし、自動認識させています。

ちなみに、Windows2000Professional(RC2)の convlog.exe は 5.0x.xxx となってヘルプをみると IIS4 と同等のようにみえます。まだ動作確認してませんが(^;

IIS3 に付属の Convlog.exe の場合、以下の 6 種が選択できます。

- スタンダード形式の IP アドレスをドメイン名(コンピュータ名)に変換
- NCSA 形式の IP アドレスをドメイン名(コンピュータ名)に変換
- スタンダード形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換)
- スタンダード形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換無)
- スタンダード形式を EMWAC 形式に変換(IP アドレス変換)
- スタンダード形式を EMWAC 形式に変換(IP アドレス変換無)

IIS4 に付属の Convlog.exe の場合、以下の 7 種が選択できます。

- IIS ログ形式の IP アドレスをドメイン名(コンピュータ名)に変換
- NCSA 形式の IP アドレスをドメイン名(コンピュータ名)に変換
- IIS ログ形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換)
- IIS ログ形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換無)
- W3C 拡張形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換)
- W3C 拡張形式を NCSA 形式に変換(IP アドレス変換無)
- W3C 拡張形式の IP アドレスをドメイン名(コンピュータ名)に変換

なお、IIS4 以降から IIS3 までには無かった、W3C 拡張形式でのログ出力ができますが、ログ解析ツール WebLog ではこのタイプは対応しておりませんので、NCSA 形式に変換してご利用ください。

選択するとログファイルの形式がどう変わるか参考例が表示されます。

2 . ログファイルの場所

コンバート対象となるログの場所を設定します。

IIS のログ設定内容から自動取得か、直接場所を指定します。

3 . コンバートログファイルの出力場所

コンバートされた結果ファイルの格納場所を設定します。

上記 2 の場所の直下に convlog というフォルダを自動作成するか、直接場所を指定します。

4 . コンバートの実行タイミング

コンバートをいつ行うかを設定します。

自動実行はせず、毎回手動で行うか、ログ出力時の翌日の指定時刻に実行することができます。

注意) この自動実行が有効なのは、IIS のログ設定で毎日作成する設定の場合です。これ以外の毎週や毎月の場合は手動で行ってください。

重要) W3C 拡張形式は仕様によりローカルタイムゾーンでなく、グリニッジ標準時で日時が記録されます。その為 NCSA 形式に変換するタイミングが翌朝の 9 時以降でなければ一日分のログを取ることが出来ません。

特記: IIS5 以降 では、「**ファイル名およびローカルに地域設定を使用する**」で 0 時に一日分となります。

- 5 . convlog.exe の場所
convlog.exe の場所を設定します。
IIS のインストール領域を自動取得か、直接場所を指定します。
- 6 . スタートアップに登録
~~自動処理の場合、スタートアップにショートカットを登録しておくも楽です。~~
Ver.1.3.0 以降レジストリに登録させ、Windows 起動時に自動起動させる
方式に変更しました。

以上の環境設定が終わり「確定」を押すと、Weblog Convert はタスクトレイに常駐します。(次回起動時からも)
タスクトレイからの操作は、アイコンをクリックすると環境設定のフォームが、右クリックの場合はメニューが現れます。(下図)



Convlog.exe には以下の注意が必要です！

- 注意 1) 出力ログファイル名は、ログ内容から自動的に決定されます。
 実例 : in991012.log を in991011.log と書き換えてコンバートしても
 出力ファイル名は、共に NC991012.log となります。
 IIS3 と IIS4 とでは、変換後の拡張子の付け方が変わります。
 IIS3 では、拡張子は変わりませんが、ファイル名の先頭 2 文字が変わります。
 IIS4 では、ファイル名は変わりませんが、変換方式に応じて、拡張子が追加されます。
- 注意 2) 重複してコンバートした場合、追加書き込みされます。
 実例 : 上記注意 1) の場合、NC991012.log には in991011.log と in991012.log
 (同一内容)のデータが出力されます。
再コンバート時には既存の出力データは削除するようにして下さい。
- 注意 3) **2000年問題有り**
 スタANDARD型式のログを NCSA 型式や EMWAC 型式に変換すると 00/01/13 が
 IIS3 の場合 : 13/Jan/2028 という具合に、2028 年と誤って変換されてしまいます。
~~IIS4 の場合 : 01/Jan/1601 という具合に、1601 年 1 月 1 日と誤って変換されてしまいます。~~
~~Windows NT Service Pack 5 の環境でもこうなります。(;-)~~
 確認の結果、IIS4 以降について正常に日付が変換できました。私のパラメータ指定が
 間違っていたようです。

手動コンバート

WebLog Convert の自動実行では前日分のログしかコンバートしませんので、それ以前のログをコンバートする場合は手動コンバートを行います。

「手動実行」ボタンをクリックし、コンバート対象ファイルを選択します。そのフォルダ内全てをコンバートすることもできます。(次頁参照)

ファイル選択時、個別を選択すると1つだけのコンバート。全てを選択するとそのディレクトリ内の全てをコンバートします。(図 18)

Ver. 1.3.0 以降、個別でも複数選択可能になりました。

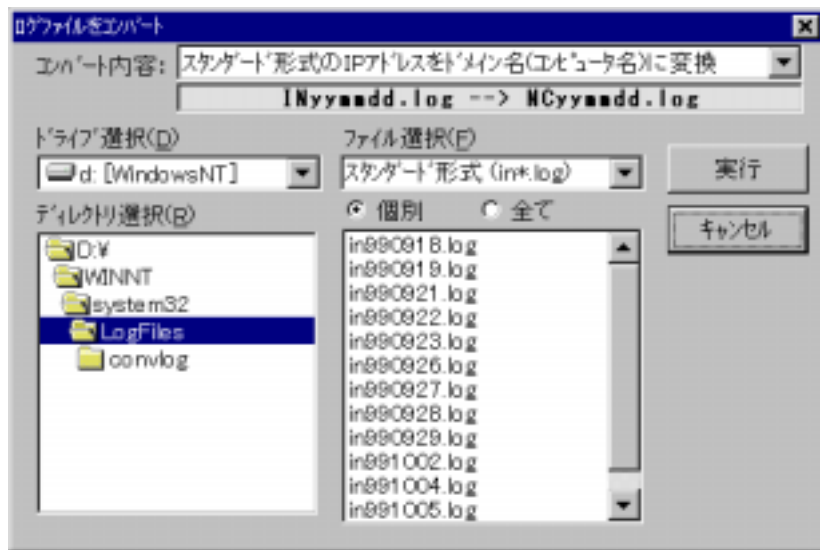


図 18

図 19 がコンバート処理中の画面です。



図 19

WebLog Convert で変換したログ情報サンプル

図 20

クライアントIPアドレス	接続日時	サービス状態	対象URL
me2-ppp18.tokyo.sannet.ne.jp	99/10/12 PM 11:51:09	200正常	/kazu/image/mosha/hirom2s.jpg
me2-ppp18.tokyo.sannet.ne.jp	99/10/12 PM 11:50:56	200正常	/kazu/mosha2.gif
me2-ppp18.tokyo.sannet.ne.jp	99/10/12 PM 11:50:56	200正常	/kazu/image/mosha/hirom1s.jpg
me2-ppp18.tokyo.sannet.ne.jp	99/10/12 PM 11:50:55	200正常	/kazu/image/mosha/miyazakis.jpg
me2-ppp18.tokyo.sannet.ne.jp	99/10/12 PM 11:50:52	200正常	/kazu/mosha2.htm
ppp17.wbs.ne.jp	99/10/12 PM 11:33:08	200正常	/kazu/soft/weblog14x.tzh
net-089.tokyoweb.or.jp	99/10/12 PM 11:03:09	200正常	/demo/netmt4.htm
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:42:01	200正常	/kazu/image/goldfish/hinos4.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:59	200正常	/kazu/image/goldfish/hinos2.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:59	200正常	/kazu/image/goldfish/hinos3.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:56	200正常	/kazu/image/goldfish/kuros3.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:54	200正常	/kazu/image/goldfish/kuros2.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:52	200正常	/kazu/image/goldfish/ryus3.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:51	200正常	/kazu/image/goldfish/kuros.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:51	200正常	/kazu/image/goldfish/kuros.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:50	200正常	/kazu/image/goldfish/kuros4.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:47	200正常	/kazu/image/goldfish/picos2.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:46	200正常	/kazu/image/goldfish/picos3.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:43	200正常	/kazu/image/goldfish/picos4.jpg
me-net.ne.jp	99/10/12 PM 10:41:42	200正常	/kazu/vsc.gif
me-net.ne.jp	99/10/12 PM 10:41:42	200正常	/kazu/mpbt.gif
me-net.ne.jp	99/10/12 PM 10:41:41	200正常	/kazu/music.gif
me-net.ne.jp	99/10/12 PM 10:41:41	200正常	/kazu/music.htm
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:39	200正常	/kazu/image/goldfish/ryus2.jpg
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	99/10/12 PM 10:41:38	200正常	/kazu/image/goldfish/komes2.jpg

総ログ数 1630件 / 抽出件数 1630件 (全アクセス対象) | 保存ファイル名: NC991012.mdb(422KB) | 99/10/16 PM 3:32

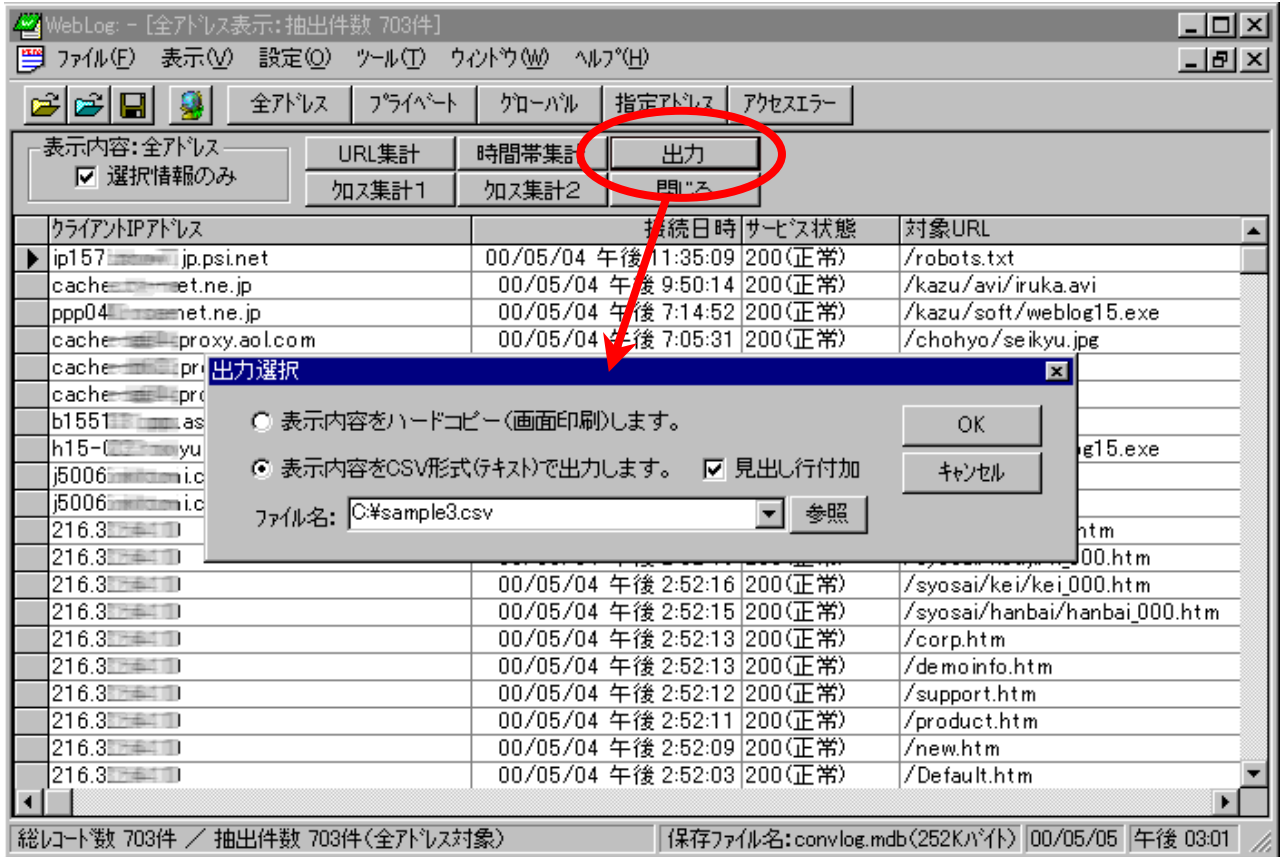
図 21

クライアントIPアドレス	アクセス集計	/Default.htm	/demo/Default.htm	/kazu/default.htm
img2-S13.stm.mesh.ad.jp	3			3
kyf019.tky.3web.ne.jp	2	1		1
ppp001.dmn.ne.jp	2			2
me-net.ne.jp	1			1
img2-pppky.fujitsu.co.jp	1	1		
img2-ysskawa.co.jp	1			1
img2-ogis-cc.ac.jp	1			1
ppp006.hamamatsu-ap2.dti.ne.jp	1			1
ppp002.dmn.ne.jp	1			1
ppp000.dmn.ne.jp	1			1
ppp2-charayk-unet.ocn.ne.jp	1			1
ppp0198.mirai.ne.jp	1			1
img2-gis2.cki.co.jp	1	1		
ppp001-01.p57.ppp.odn.ad.jp	1			1
me-kokudenkogyo.co.jp	1			1
me-net1.epdc.co.jp	1			1
me-net1-633.szo.mesh.ad.jp	1			1
me-net13.hakusan.ed.jp	1			1
ppp001-0116.p142.ppp.odn.ad.jp	1			1
img2-well.musashi.ac.jp	1			1

7. 出力機能(CSV形式)

従来「画面印刷」と名前の付いたボタンが「出力」と名前変更されました。
 図 22 にあるように画面印刷とファイル出力を選択して処理します。
 図 23 は CSV ファイルを表計算ソフトから読み込んだものです。

図 22



出力した CSV ファイルを Excel から読み込んだところ。

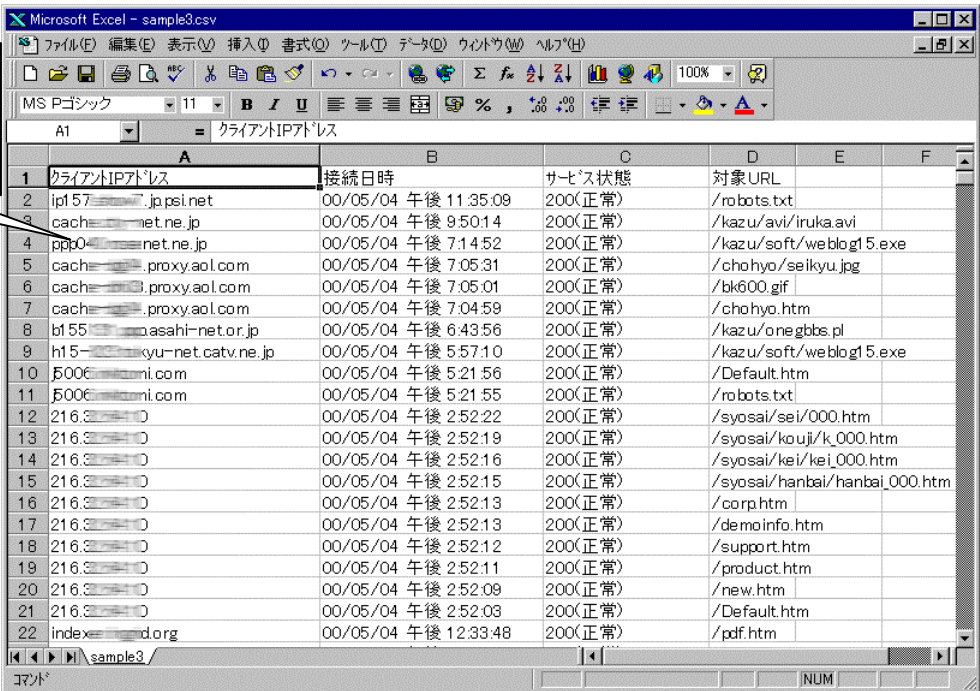


図 23

8 . Ping、Tracert ユーティリティ

「ツール」メニューから、Ping、Tracert ユーティリティを実行できます。

ログ情報のクライアント IP アドレスは単に数値の羅列で一体どこの誰なのか分かりません。そこで Ping や Tracert を使ってドメイン名を調べることができます。

姉妹ソフト「WebLog Convert」を使えば自動でドメイン名に変換できます。

Ping の指定画面(図 24)と実行結果(図 25) 図 24

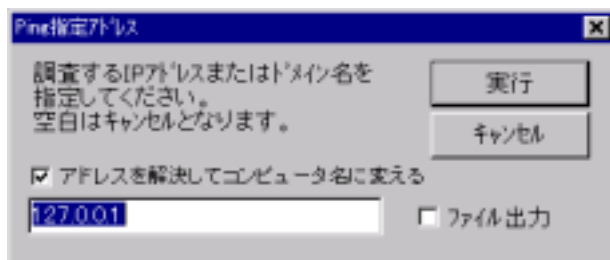
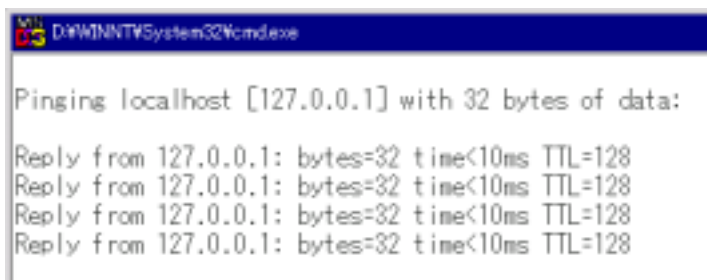


図 25



Tracert の指定画面(図 26)と実行結果(図 27) 図 26

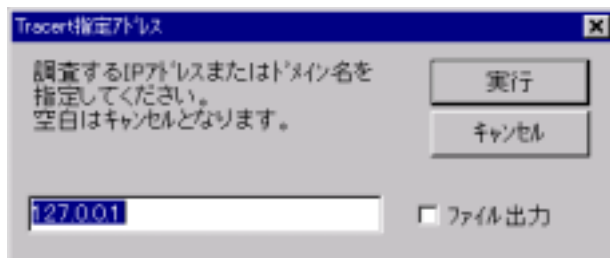
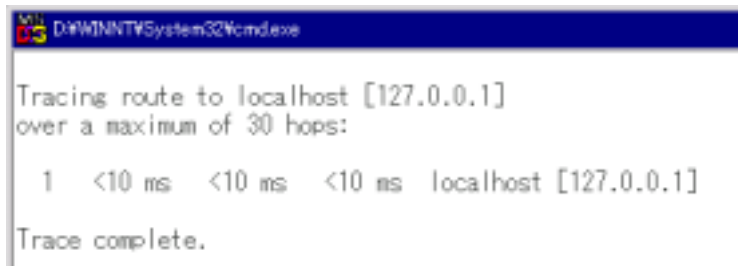


図 27



これらのユーティリティはいづれも Windows9x・NT・2000 のコマンドユーティリティを起動しています。詳細は Windows のヘルプをご覧ください。

9. ライセンス登録

1. WebLog・WebLog(NCSA)のメニューの「ヘルプバージョン情報」をクリック。

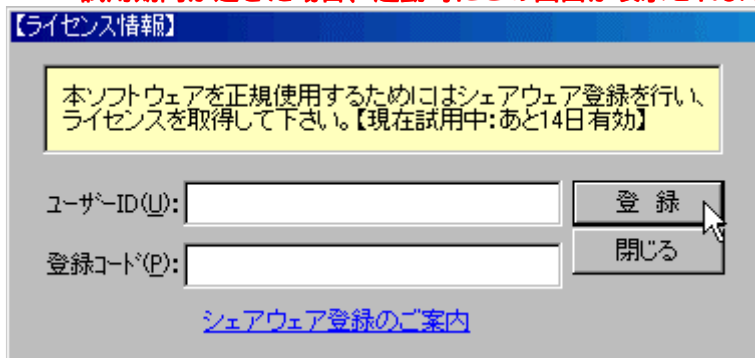


2. ライセンス情報をクリック



3. メールに記載された「ユーザーID」と「登録コード」を入力し、「登録」ボタンをクリック。

試用期間が過ぎた場合、起動時にこの画面が表示されます。



1. Informational 1xx

このステータスコードは、予約されたステータスを意味します。ステータス行とオプションヘッダのみからなり空行で終了しています。HTTP/1.0 では 1xx ステータスを定義していません。これは HTTP/1.0 では無効なものです。しかし、開発中のアプリケーションや仕様書から外れるアプリケーションでは有用とされます。

2. Successful 2xx

このステータスコードは、クライアント側の要求が正常に受け入れられたことを意味します。

200 OK

要求は成功しました。サーバーから返される情報はリクエストされたメソッドにより以下のように異なります。

GET 要求されたリソースと一致したものが返される。

HEAD 要求されたリソースのヘッダ情報のみを含んでいる。

POST 処理プロセス (CGI) の結果を含んでいる。

201 Created

要求は実行され、処理プロセスによって生成された新しいリソースを返しています。生成されるリソースは指定された URI の返されるデータ本体として参照することができます。サーバーではこのステータスコードを返す前に処理プロセスを実行するでしょう。処理プロセスがすぐに結果を出さなければ (タイムアウトすれば) サーバーはデータ本体にリソース (処理スクリプト) が有効であるという 202(accepted) が返されます。

このステータスコードは POST メソッドのみで有効です。

202 Accepted

要求は処理プロセスに受け入れられたが、プロセスが完全に動作しなかった。リクエストは実行されたかされなかったか不明。

ステータスコード 202 は故意に受け入れられない。この目的はユーザエージェント(ブラウザ) によるサーバー側の処理が終わるまで待たないで、サーバーが別のプロセスに対して要求を受け入れるようにするためです。このステータスで返される

本体は要求に対する状態を含んでいます。

204 No Content

サーバーは要求を処理したが、送り返すべきデータがないことをあらわします。もしクライアントがユーザエージェントなら、送られてくる生成されたデータを変更しません。このステータスは処理プロセスに対して入力を行うために意図されたものか、もしくはアクティブなドキュメントを変更して表示しなおすことなく入力を行うように意図されたものです。このステータスコードは送信されるヘッダのフォームに新しい URL を含むことができる。これはユーザエージェントのアクティブなドキュメントに対応する。

3 . Redirection 3xx

このステータスコードは、ユーザエージェントに何かを要求していることを伝えるためのものです。ユーザエージェントに要求された動作は GET か HEAD のときだけユーザに問い合わせることなく処理されます。ユーザエージェントではこの要求に対して無限ループを引き起こさないように、自動的に同じ要求を 5 回以上送ってはならない。

300 Multiple Choices

このステータスコードは HTTP/1.0 アプリケーションでは直接使われませんが、コード 3xx のデフォルトとして使用されます。

要求されたリソースは一つ以上存在します。HEAD リクエストでなければ、ユーザかユーザエージェントが選択できるような形式で、すべてのリソースのリストを生成します。サーバー側で適当なリソースを設定していれば Location フィールドで有効な URL を示しています。ユーザエージェントからは Location で指定されたリソースを再度要求します。

301 Moved Permanently

指定されたリソースは (ファイルなどの恒久的な) 別の URL に割り当てられています。そしてそれ以降の参照もその URL を使って行われます。もし可能なら、クライアントはサーバーから返される新しい URL に自動的に要求された URI を再リンクします。

新しい URL は返されるヘッダの Location フィールドによって指定されています。HEAD リクエストでなければ返されるデータの本体には新しい URL へのハイパーテキストを含んだ短いメッセージを入れています。

ユーザエージェントは POST リクエストでステータスコードが 301 の場合、ユーザに確認しないで自動的にその URL に移動しては行けません。これはリクエスト

ごとに返されるデータが異なるためです。

Note: 301 ステータスコードを受け取った後に POST リクエストをリダイレクトするとき、いくつかのユーザエージェントは間違って GET に変換しています。

302 Moved Temporarily

要求されたリソースは別の URL に一時的に移動しています。クライアントは返された新しい場所続けてリソースを要求します。

URL は Location フィールドに入れられます。HEAD リクエストでなければ、返されたデータ本体には新しい URI のハイパーリンクのついた短いメッセージを含んでいます。

ユーザエージェントは POST リクエストでステータスコードが 302 の場合、ユーザに確認しないで自動的にその URL に移動しては行けません。これはリクエストごとに返されるデータが異なるためです。

Note 301 ステータスコードを受け取った後に POST リクエストをリダイレクトするとき、いくつかのユーザエージェントは間違って GET に変換しています。

304 Not Modified

もしクライアントが If-Modified-Since フィールド付きの GET リクエストを行った場合、指定された日付からドキュメントが更新されていなければ、サーバーは本体を送らないでこのステータスを返します。返されるデータに含まれているヘッダはキャッシュマネージャに関連のあり、Last-Modified 値に依存しないで変化している情報だけを含んでいます。これらのヘッダフィールドの値は Date, Server, Expires です。キャッシュマネージャは古いドキュメントのフィールドを 304 レスポンスで与えられた新しいフィールド値に置き換えます。

4. Client Error 4xx

4xx ステータスコードはクライアント側でエラーが起きたという意味になります。もしクライアントが 4xx コードを受け取ったとき、サーバー側へのデータ送信が終わってなければ、直ちに送信を停止しなければなりません。リクエストが HEAD でなければ、サーバーはエラー状況の簡単な説明をメッセージに含みます。エラーの状態は一時的なものか恒久的なものです。これらのステータスコードはどんなリクエストにも当てはまります。

Note: もしクライアントがデータを送信しているなら、入力接続を閉じ

るように優先している命令を含んだパケットを送らなければならないことをサーバーは保証しなければ行けません。もし接続を閉じてからクライアントがデータを送り続けたなら、サーバーはクライアントにリセットパケットを送るでしょう。これは、接続を閉じる命令のパケットが入力バッファによってすぐにクライアントに伝えられない場合に発生します。

400 Bad Request

リクエストは文法が正しくないためサーバーに理解できなかったことをあらわします。クライアントは要求を修正してから再送信します。

401 Unauthorized

リクエストはユーザ認証を必要とします。返されるデータには要求されたリソースにアクセスするために必要な WWW 認証ヘッダフィールド (Section 10.16) を含んでいなければなりません。クライアントからは認証ヘッダフィールド (Section 10.2) に沿った要求を再送信します。もし要求がすでに認証ヘッダを含んでいれば、401 は認証に失敗したことを示します。もしユーザエージェントが1度以上認証を試みて、401 のレスポンスが先のレスポンスと同じチャレンジを含んでいれば、ユーザは送られてきたメッセージの本体を受け取ります。これは本体が診断に役に立つ情報を含んでいるためです。HTTP アクセス認証は Section 11 で説明されています。

403 Forbidden

サーバーがリクエストを受け取ったが、リソースを取り出すのに失敗したことを示します。HEAD リクエストでなく、サーバーから要求に対する公開的なメッセージを送るように設定されているなら、メッセージにはアクセス拒否に関する説明が含まれています。このステータスコードはサーバーがリクエストを拒否したとき、もしくはほかのステータスに当てはまらないときに使用されます。

404 Not Found

サーバーは URL に該当するリソースを見つけられなかったことをあらわします。この状況は一時的なものか恒久的なものかは分かりません。もしサーバーがこのステータスを返すように設定されていなければ、このステータスは 403(forbidden) に置き換えられます。

5 . Server Error 5xx

"5" から始まるステータスコードは、サーバーがエラーを検知したかその要求を処理する機能や能力がないことを示します。もしクライアントがデータを送信している途中で 5xx を受け取ったら、直ちにデータの送信を停止します。HEAD リクエストを除いて、サーバーはエラーが一時的なものか恒久的なものかの説明をメッセージに含めます。

これらのステータスコードはすべてのリクエストに適用され、リクエストにはヘッダフィールドは存在しません。

500 Internal Server Error

サーバーはリクエストを処理できないような、予期しないエラーを検知した。

501 Not Implemented

サーバーは指定されたリクエストを処理するための機能をサポートしていない。これは、サーバーが指定されたリクエストを認識できなく、どんなリソースに対してもそれがサポートされないことを示します。

502 Bad Gateway

ゲートウェイもしくはプロキシとして動作しているサーバーが、要求を処理している側のサーバーから不正なレスポンスを受け取った。

503 Service Unavailable

サーバー側の一時的なオーバーローディング (ビジー) かメンテナンスにより、要求を扱うことができないことを示します。これはしばらく後に改善されると思われる一時的な状態です。

Note: 503 ステータスコードはサーバーがオーバーローディングされたときにのみ返されるようになっている必要はありません。いくつかのサーバーはこのステータスで簡単に接続拒否を行っています。

(文責 : ToRA. URL : <http://www.mars.dti.ne.jp/~torao/program/index.html>)